



事業所における自己評価総括表

事業所名	放課後等デイサービス おもちゃ箱さぎぬま			
保護者評価実施期間	R6年 4月 1日		～	R7年 3月 31日
保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数)	17
従業者評価実施期間	R6年 4月 1日		～	R7年 3月 31日
従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	10
事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 24日			

○ 分析結果

	事業所の強みだと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の子どもに対してのアセスメントを適切に行う・子どもと保護者のニーズや課題をもとに支援計画の作成	面談時、三者面談の場を設けることで子どもと保護者のニーズを確認している。	常に子どもに対するアセスメントを行ない、変化があった時には職員間で共有をしていく。
2	子どもの状況に応じて個別活動と集団活動を組み合わせて支援が行われている	子どもの状況の変化に応じて活動内容を変えたり、プログラムが固定化しない様職員間で話し合い、子どもに合った活動を取り入れている。	職員全員が取り組みについての積極性を持ち、子どもの変化にも気が付けるようにすることでより良い支援に繋げる。
3	子どもの自己選択できるような支援	子どもの意志を尊重し、自己決定ができるような支援を行っている。発言が難しい子に対してはカードなどを用いて選択させることで自分の意志を伝えることが出来るようにしている。	子どもと職員間での信頼関係を築くことで子どもが自由に発言できる環境を作っていく。

	事業所の弱みだと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他事業所や児童クラブなどの他の子どもとの関わりや、地域の方々との交流がない	小規模事業所のため外部の子どもたちと関わりがない。地域活動も事業所の営業時間外なことが多いため参加が難しい。	こちらから出向くことで他の子どもや地域の方々との交流の場を設ける。様々な活動に参加できるようスケジュールを組むなどして交流を深めていく。
2	第三者による外部評価	年に一度保護者による外部評価は実施している。	保護者の要望や苦情等含めて把握することで業務の改善に繋げていく。
3	支援終了後の職員間での打ち合わせや振り返り	送迎の関係から支援終了後振り返りをする時間がない。	送迎後ミーティングの機会を設ける。その日のうちに共有すべき事項を確認することで困りごとを解消していき、より良い支援に繋げていく。